

## 中井雅彦

東日本旅客鉄道(株) 常務取締役

政府の経済政策「アベノミクス」の効果等により、日本経済は徐々に景気回復に向けた明るさが見え始めています。所謂「三本の矢」と言われる大胆な金融緩和による円高の是正、機動的な財政出動による公共投資の実施等により、長年、我が国が苦しんできたデフレによる停滞の時代を乗り越えようとしていますが、今後の民間投資を喚起する成長戦略が描けるかどうかによって真の経済復活の成否がかかっています。鉄道会社に身を置く者としても、お客様の動きが非常に活発になってきていると日々実感しており、是非、この流れを止めることなく、日本再生に向けて突き進んで行くことを期待しています。

加えて、昨年9月のIOC総会において、2020年の東京オリンピックの開催が決定され、日本中が沸き立ちました。首都東京が未来に向かって大きく前進していくきっかけになると思います。

さて、日本がますます元気になっていくためには、具体的な成長戦略を作成し推進していく必要がありますが、その一つは国をあげて「観光」に力を入れ交流人口を増やすことだと思います。国内観光の活性化はもとより、海外からの来訪者を増やしていくインバウンド施策も重要です。人の流れを活発にしていくためにオリンピック開催を一つの契機にするとともに、それ以降も含めた長期的な視野において国内が移動しやすくなるようインフラ整備を進めていくこと、そして、それぞれの地域独自の魅力に磨きをかけ、情報発信することが必要です。また日本の魅力を海外でPRすることも重要ではないでしょうか。当社も首都圏を含めた東日本エリアを担当する鉄道会社として、これに貢献していきたいと思います。

そのような中で、当社がなすべきことは、第一に都市間ネットワークの拡大・充実です。来春には北陸新幹線が金沢まで延伸になります。また、北海道新幹線の函館開業も目途がつく段階にまで来ています。まずは、首都圏と北陸地方、函館エリアの観光需要の創出に取り組みたいと思います。また、新在直通運転を実施している山形・秋田新幹線の安全安定輸送も対策もしっかり進めていきたいと思います。これら新幹線ネットワークを充実させて、都市間を快適に移動できるよう取り組んでいます。各都市の時間的距離が縮まることで、人の流動が活発化し経済の再生に寄与すると考えられます。

第二に首都圏ネットワークを充実させることです。来春開業予定の上野東京ラインはその代表です。開通した暁には、かつての湘南新宿ラインの時のように、東京圏の輸送体系を一変させることに繋がると期待しています。また現在、羽田空港と都心部のアクセスを向上さ

せるための新線計画を検討しています。今後羽田空港の国際化や国内の航空需要の増加に伴い、羽田の発着回数が大幅に増えるものと予想されており、このためにも新たなアクセス線の整備が必要になります。この計画は、現在休止中の臨海部貨物線を有効活用しつつ、都心部へのアクセスを可能にするというものです。東京駅はもとより北関東方面からも上野東京ラインを活用して直接アクセスが可能になります。さらに計画次第では、新宿・池袋等の西山手方面や、京葉線を活用した千葉方面とのアクセスの可能性も広がります。現在、整備手法を含めてハード・ソフト両面から検討しておりますが、東京と国内外の各都市との距離が少しでも縮まり、東京が国際都市として相応しい街となる一助になると期待しています。

最後に、駅を中心とした地域の活性化に対する取り組みです。特に首都圏のターミナル駅を中心とした街づくりに貢献したいと思っています。一昨年復元した丸の内駅舎および昨年開業した八重洲グランルーフに代表される東京駅は、首都東京の表玄関に相応しい駅に変身し、大丸有地域と一体となった街づくりを進めています。また、スリム化した当社車両基地の跡地を含めた品川エリアの開発においても、国際交流拠点としての街づくりを進めており、新宿、渋谷、千葉等の各駅においても、周辺の街づくりと連携した駅づくりを進めています。駅は街の顔であり玄関ですが、周辺の街づくりと整合を取りながら同時に整備していくことが重要です。駅と街を活性化することにより、首都圏ひいては日本を元気にしていく原動力となろうかと思えます。

外部環境が好転しつつある今だからこそ、成長戦略をきちんと実行すべき時期に来ています。日本経済を確かな成長軌道に乗せるために、必要な社会インフラはしっかり整備をしていく必要がありますし、既存ストックも維持するとともに有効活用していかなければなりません。将来に希望を持ち、日本という国に生まれ東京という街で暮らすことに喜びを感じる事が出来るような、そういう東京を作り上げていきたいものです。

## WS (ワークショップ) 研修

### ■WS研修の心得

第1回のWS研修(平成21年3月~6月)でメンバーに配布された「ワークショップの心得」です。以後毎回参加者に配布し、実りある研修となるよう努めています。

1. ワークショップは、皆で修練し高めあうことが大事!
2. 肩の力を抜いて、全員参加で中身のある生きた議論をしよう!
3. 自分の話は短く、大演説は厳禁!
4. 人の話は良く聞き、相乗りし発展させていくことに努めよう!
5. 人の意見の否定は厳禁!
6. 具体的なイメージを大きく膨らませていこう!

7. 細部に抱らず、大きな目線を忘れずに！
8. 結論を求め過ぎず、議論をどんどん発散させていこう！
9. とは言っても、目的は忘れずに！
10. 全員が一回に一データくらいは持ち合おう！
11. 全員で楽しく真面目に取り組もう！

### ○参加者の声

私は、今まさに取組中である「上野駅周辺未来構想WS」に参加させていただいています。これまでも未来構想PFのWGには第5回、第9回の2度参加させていただきました。WS参加者の方々の中であって年齢だけはトップクラスということですが、だからこそ毎回、青臭い提案を心掛けています。今回のテーマは“WSの心得”とのことですので、恐縮ですが大向こうを相手に猪口才な私がこれまでWSに参加させていただいた中で勝手に思い描いた“My心得”を述べたいと思います。

- 1.産官学、現職OBといった壁を越えて・・・という設立趣旨の一部を都合よく真受けする。
  - 2.WS後に開催される懇親会に1.での非礼のお詫びの気持ちを込めて可能な限り参加する。
- この2つです。結果は、非礼のお詫びのつもりがますます非礼を働いている。というのが実態ですが・・・

実社会ではなかなか壁を越えることは難しいですし、いくつかの仕事を通じ経験を共にして信頼関係を築いていくことには時間も労力も掛かるのではないかと思います。巨大な社会のシステムや会社の系統などの枠があるからこそ、私たちはその社会システムに依存し、組織に所属することによって生きる意味を考えることを省略することができ、安心して暮らしているとも言えるのではないのでしょうか。安心に暮らせるからこそ、健全な創造性を発揮する余裕が出来るとも言えます。一方で、システムの枠があることで、考えの受け渡しに時間がかかったり、正確に伝わらなかつたりという事象が生じたりします。社会が硬直化してくるとますますシステム全体の機能が停滞したり、自己攻撃や過剰追及や過剰防衛が起きたりすることでしょう。

未来構想PFのWSは自分で生きる意味を考えなくてはならないシミュレーションだと思います。しかし、瓢箪から駒ということもあります。出来るだけ環境の違った組織からの参画がよい。安心できませんから考える。その際に、1.の都合よく真受けすることをお勧めします。未来構想PFの理事の方々が見守って下さっています。甘えましょう！！情報の交換は、まじめに座って議論しているだけでは不十分です。言動の動機を感じる事が了解に繋がります。ですから2.の懇親会参加。この2つを心得としています。

(ジェイアール東日本建築設計事務所 三田敏嗣)

## VOICE (会員の声)

## WS (ワークショップ) 研修に参加して

## □はじめに

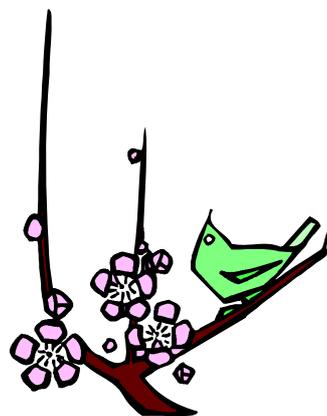
平成25年8月から11月までの3ヶ月間、ワークショップ研修に参加させていただきました。研修は、橋本駅の連絡通路および自由通路を題材とした、全8回の施工計画部門のワークショップです。

## □ワークショップ研修の概要

ワークショップ研修では、JR東日本の土木、建築職の方々やジェイアール東日本コンサルタンツ、ジェイアール東日本建築設計事務所のメンバー10名の方々と施工計画について議論できる場でした。このような様々な分野の方と同時に議論できる場は、いままでの業務において経験したことがなく、貴重な経験となりました。

具体的なワークショップの内容ですが、

- ① 調査段階における施工計画
- ② 事前調査の項目と資料収集
- ③ 現地調査と現状把握
- ④ 施工計画のコンセプトと施工ステップ
- ⑤ 概略施工計画検討 (仮設備～下部工まで)
- ⑥ 概略施工計画検討 (上部工～最終形)
- ⑦ 主要数量と概略工程表の作成
- ⑧ 研修のまとめ



というように、8回に分けて段階的に施工計画を作成していくという研修でした。

## □ワークショップ研修を終えて

形が見えない段階から、自分自身で考えコンセプトを創り施工計画を企てるという新たな経験をすることで、自分自身の強み弱みを知ることができました。また概略施工計画が、設備投資計画を決める概略予算を求める上で重要な要素であるということを認識させていただき、大変有意義な研修であったと思っております。同時に参加させていただきましたこと、また、参加したメンバーの方々、会長を始めオブザーバーの方々に感謝しております。

今回経験させていただきました研修を今後の業務に結びつけ活かせるように、研修で得た知識や施工計画の進め方、ワークショップを通して知り合ったメンバーの方々との繋がりを貴重な財産として、日々業務に励んでいく所存でございます。

また研修に参加する機会があった際は、ぜひ参加させていただきたいと思っております。

(平成26年2月6日 鉄建建設 田村将英)

[事務局] 次号でWS橋本駅の詳細を報告予定です

## NEWS

## ■技術講演会を開催

去る10月31日、ジェイアール東日本コンサルタンツから委託を受け、JR東日本グループ関係者（本社、東京工事事務所、ジェイアール東日本コンサルタンツ、ジェイアール東日本建築設計事務所、鉄建建設）を対象に、未来構想PFが企画して技術講演会を開催しました。

- ・ 講演者：政策研究大学大学院 森地茂特別教授（未来構想PF理事）
- ・ 演題：これからの交通インフラへの展望
- ・ 場所：JR新宿ビル東京工事事務所会議室
- ・ 参加者：JR東日本中井常務・熊本復興企画部長・平野ターミナル計画部長・井上東京工事事務所長、山崎ジェイアール東日本コンサルタンツ社長、前田ジェイアール東日本建築設計事務所社長、橋口鉄建建設社長、他  
総数132名

- ・ 講演内容  
はじめに

地域の責任として、明快な戦略と行動を  
専門家に求められる機能は、

- ・ 地域戦略づくり＋プロジェクトづくり＋計画＋設計・施行管理

## 1. 行動する技術者とは？

地域に貢献する技術者の努力に見える共通点

- ・ 新たな視点／包括的理解と解決
- ・ 仕事を楽しむ心／問題の本質の直視
- ・ 職域を超えた尽力／協力者の存在
- ・ 人的ネットワークの形成／持続性

事後評価の勧め アリバイ証明的な事後評価から建設的評価へ

## 2. インフラの高齢化

米国からの教訓

累積させると回復に長期間

細部の部材の欠陥の検知

自治体の技術者不足 広域行政とPPP

試行的な先進事例（維持管理）

## 3. 既存不適格問題

既存不適格施設の存在

既存不適格施設の解消方法

## 4. 人口構造の変化と地域活性化

人口減少で日本の経済は縮小するか？

- ・ 人口減少下での経済成長：3つの方策

アジアの繁栄を国内各地域に内部化

労働人口の確保

生産性の向上：地域の国際競争力向上

・これらは、すでに政策化・・・急がれる実行力

東京圏への人口集中

地方市町村の人口構造と経済成長

#### 5. ナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会

おわりに

人口減少化で衰退しない国土形成は可能

プロジェクトづくりの経験から

プロジェクト推進の要件（以下の論理的シナリオを）

・社会的必要性：明快な大義名分

・共同する人々のネットワーク

・適正な対応策のシステム化

熱の入った内容と会場からの質問もあり、時間をオーバーする盛況な講演会でした。



J R C 山崎社長開会挨拶  
写真 1



森地特別教授  
写真 2



会場から鋭い？質問も  
写真 3

### 今月の国際比較データ

#### ① 世界の路面電車（2011年）

出典：東京新聞大図解シリーズ：世界の路面電車 2011/02

資料提供者：J R 東日本コンサルタンツ 小林重夫



## 事務局通信

## ■第6回上野駅周辺整備構想WS

- ・日 時：平成26年1月21日18:30～
- ・場 所：大手町ビル会議室
- ・参加者：斉藤親ファシリテーターと産学官メンバー11名  
オブザーバーとして、未来構想PFから山本会長と溝畑・森地・矢島の各理事、その他産学官を含む特別参加者 総数26名
- ・話 題：今回は4グループのうち2グループから、上野駅とその周辺のまちづくり構想についてプレゼンがあり、メンバーやオブザーバーから多くの意見や感想、海外を含む事例紹介がありました。
- ・次回（2月20日開催予定）は残りの2グループからのプレゼンを予定しています。

## ～ ● 今月の写真コーナー ● ～



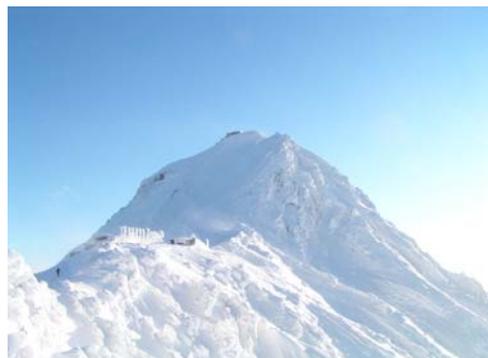
① 自然が織りなす雪と氷の芸術作品



② 横岳 大同心正面壁（行者から）



③ 氷点下20℃ 早朝のダイヤモンドダスト



④ 厳冬期の赤岳山頂

（高度の低いものから順に並べてみました 日本シビックコンサルタント 元木義隆）

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。  
連絡先：未来構想PF事務局 土井 携帯:090-9150-8613 メール：[info@miraikoso.or.jp](mailto:info@miraikoso.or.jp)  
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28